

地区名：小山地区

実施主体：小山をよくする会

1 基本データ

○地区人口 1,893人 (R2.4.1現在)

○世帯数 648世帯

○行政区数 15行政区

○地区の沿革

小山地区は、大野市の南西部、市街地に隣接し、緑豊かで自然にあふれた農村地域である。面積は、東西およそ2.8キロメートル、南北およそ6キロメートル。地区内には、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地している。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在している。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、農村地帯として発展をしてきた歴史がある。

【赤枠で囲われたところが小山地区】



地区内には「愛汗喜働」という汗を流して働く喜びを表した言葉が残り、米づくりなどの農作業を集落内で助け合うことを基礎としてコミュニティが形成されてきた。そのため、「結の精神」が残っており、住民間の繋がりが強い。

結の故郷づくり交付金を活用した地域づくりの活動は、地区内全戸を会員とする「小山をよくする会」が主体となり実施している。「小山をよくする会」は、明るく豊かで住み良い地域づ

くりを目指し、地区内から選出された役員と各集落から選出された推進委員により話し合いながら活動している。

交付金事業は、まず「地域の歴史や文化を掘り起こし、地区住民に知ってもらうことによる、地域を誇りに思う住民意識の醸成」を目標に始まった。

平成18年頃に公民館で開催した歴史講座をきっかけに「小山荘歴史の会」が誕生、「小山をよくする会」と連携し史跡看板整備や地区内のマップ作成などに取り組んできた。特に小山地区の歴史の象徴として取り組んできた「舌城・茶臼山城跡調査及び遊歩道の整備、管理」は、「小山をよくする会」だけでなく、「小山荘歴史の会」及び地元である上舌区の協力がなくては実現できなかった。

2 現状と課題

小山地区は、現在でも農業が主要な産業である。しかし、農業の機械化や農業従事者の減少など様々な影響により協力して農作業を行う機会が減り、集落総出で田植えなどをすることもなくなったことなどから地域の繋がりが薄れてきている状況がある。

地区内の高齢化率は33.79%（令和2年12月）であり、大野市全体の高齢化率36.45%よりは低いが、全国の高齢化率である28.4%（令和元年度版高齢社会白書より）に比べると高い状態である。また、高齢化の進行とともに少子化も進んでおり、地区内の集落では、子どものいない集落もある。そのため集落において、行事などが実施できず、更なる人間関係の希薄化が懸念される。

一方、退職年齢の引き上げなどにより、地区内における社会活動に参加する年齢層が限定され、参加者が減ってきている。これは集落内においても同様であり、集落の役員や団体の役員などの担い手は常に不足している状況があり、これは組織力の減少につながっている。実際に、これまで地域づくりに取り組んできた「小山荘歴史の会」は令和元年度末に解散した。

小山地区の地域づくりの課題及び取り組みを続ける上での課題を整理すると、

- ・地区内、集落内の関わりが希薄になり、地域づくりの基本となる「結の精神（こころ）」が薄れてきていること。

- ・少子高齢化や人口減少などにより、地区や集落でこれまで行ってきた行事を続けることができず、益々、人と人とのつながりが無くなっていること。

- ・地域づくりの活動に取り組む人や団体がいないと、地域は衰退するばかりなので、地域住民の思いを受け止め支援することで、団体やグループの成立を支援し、活動を広げていく必要があること。

- ・地域づくりに取り組む人や団体の活動が長く続くように、一つの団体やグループに活動を依存するのではなく、地域住民全体の協力により活動できる体制を模索していく必要があること。

などになると考えている。これらの課題の解決には特効薬はないため、地区住民が地区の行事や集落内の行事での交流を促進すること。また自らが住む小山地区のことを知り、誇りに思い、好きになってもらうことで課題の解決に繋がっていくように取り組んでいきたい。

なお、令和2年度の事業実施に当たっては、新型コロナウイルスの感染拡大に大きな影響を受けた。

3 事業の内容

令和2年度の事業は、①歴史と文化の里づくり事業、②地域づくり事業、③地域コミュニティ支援事業の3つの事業で構成されている。

①歴史と文化の里づくり事業

歴史と文化の里づくり事業は小山地区の歴史を掘り起こし、住民に地区の歴史知ってもらうこと、小山地区に誇りを持ってもらうことを目標に実施している。特にこれまでの活動による有形・無形の財産を管理していくことが重要になっている。

舌城・茶臼山城跡管理整備事業

これまで歴史の文化の里づくり事業で取り組んできた成果である「舌城・茶臼山城跡」に整備した遊歩道の管理のため、地元である上舌区と合同で草刈りを実施した。また、遊歩道を塞いでいたり、塞ぐ恐れのある樹木の伐採を上舌区に委託し実施した。

また、地区内で広くボランティアを募集し、地区全体で草刈りを実施する形を構築した。ボランティアの募集は、令和2年度が初めての試みであるため、応募は少なかったが、続けていくことで活動を地区内に浸透させていくことができると感じている。

参加者には、小山荘歴史の会の元会長だった上舌区の高津氏から、舌城・茶臼山城跡の歴史を説明してもらった。遊歩道の管理だけでなく、歴史についても認識を広げていくようにしたい。

【出発前の歴史講座】



【舌城・茶臼山城跡遊歩道草刈り・樹木伐採】



②地域づくり事業

小山夏まつり・ふれあいまつり

・小山夏まつりは、新型コロナウイルスの対策

が十分に取れない恐れがあり、中止とした。特に模擬店での飲食、ゲームコーナーでの密集、準備での暑さ・密集などについて、十分な対策を用意できなかった。これについては次年度への課題としたい。

・小山ふれあいまつりでは、開催に向けて去年不足を感じたスリッパを購入したが、その後小山小学校を会場とした開催ができなくなったため、計画の変更を余儀なくされた。式典やステージイベントについては中止し、模擬店での食べ物の販売も中止した。新型コロナウイルスの影響の中で何ができるかを考えた結果、小山地区文化祭との位置づけで、小山地区内児童の図画工作などの作品展示を中心に、地区内で活動している団体の絵画展や活動展示などを小山公民館で実施した。

小山ふれあいまつりの様子

【鉦踊りDVDを見て踊る児童】



【左：児童の作品展示、右：写真コンテスト】



【土筆の会作品展示】



【まつり後、小山小学校児童の学習成果展示】



作品展示のため購入したパネルは、まつり終了後には、小山小学校児童の学習成果をまとめた壁新聞などを公民館で展示している。

小山ふれあいまつりには約150人の地区住民が訪れた。なるべく多くの人に来てもらえるように展示の期間を6日間にし、期間中は会場内で小山鉦踊りのDVDを上映した。新型コロナウイルスの影響がある中で、できることを考え行事を実施できたことは良い経験になった。

もぐもぐランチ

令和元年7月から、地区内で食を通じた世代間交流事業が始まった。小山公民館を会場に、地区内の有志を中心にランチを作り、いろいろな世代の人が交流をしながら一緒に食べる事業で小山小学校の児童が料理の手伝いをしてくれたり、家族三世代・四世代で参加があったりと、とても良い事業であった。



【毎回55食分のお弁当を作っています】



令和2年度の事業を計画する中、前年度に利用した県の補助が使えないため、活動資金の捻出に悩んだ主催団体から相談があった。よくする会で検討した結果、地域づくりの取り組みとして活動を支援することになった。令和2年度は新型コロナの影響や大雪の影響などで、開催を中止した月があった。また、新型コロナウイルスの感染対策として、公民館での会食は行わず、お弁当を配布する形で事業を継続している。これは、地域住民に浸透してきた活動を途切れさせないことも目標としている。

動画撮影用カメラ等購入事業

令和2年度の行事で、ステージでのイベントなどが軒並み中止になった。また、地域では大正琴や三味線、太鼓のサークルがあり練習を続けているが、発表の機会が無くなってしまった。また小山ふれあいまつりの展示会場内で、小山鉦踊りを紹介するDVDを上映したが、来場された方には好評であり、動画を使った発表や活動紹介などが、コロナ下での安全安心な発表として活用できるのではないかと考えた。年度途中で追加事業化したため、令和2年度の活動を全て記録できたわけ

ではないが、放課後子ども教室での児童の活動の様子や、小山小学校での卒業式の様子などを撮影し記録できた。令和3年度はサークルの発表を動画に編集し、会場で放映することで、多くの人に見てもらいたい。

③地域コミュニティ支援事業

集落内で地域の課題を話し合い、共同作業を実施することで、共助の精神である「結の精神」の醸成を目的とする「地域コミュニティ支援事業」について、令和2年度は次のとおり実施した。要望される事業費総額が交付金予定額を上回るため、区長会やよくする会推進委員会で配分額を決定している。

雪崩防護壁前集落道舗装（下黒谷区）
農業用水路改修工事（飯降区）
水路清掃事業（上舌区）
排水路改修事業（鉦掛区）

雪崩防護前集落道路舗装（下黒谷区）

下黒谷区にある平成8年に設置された雪崩防護壁には集落の平穏無事を祈願した観音像レリーフが飾られている。

定期的にテレビ番組で紹介されることもあり、市内外からここを訪れる人も多くなっている。

防護壁前の道路について、平成27年度から集落の住民延べ総出で、整地・型枠設置・舗装・型枠外しなどの作業を実施してきており、令和2年度も実施した。

農業用水路改修工事（飯降区）

集落内にある農業用水路の柵に蓋がなく、子どもが落ちたりする危険があるため、蓋を作り設置した。設置には地区住民が参加し、作業を実施した。

水路清掃事業（上舌区）

集落内に水を引き入れる水門及び上流部にかけて、砂利が堆積し、大雨の時などに水門から

流れ込んで設備の損傷が見られるようになったため、地区住民の手で水路清掃を実施した。



排水路改修工事（鉤掛区）

集落内の排水路が破損し、道路上に水があふれるようになったため、地区住民の手で排水路の改修を実施した。



4 事業の成果

①歴史と文化の里づくり事業

・これまで整備・管理してきた、舌城・茶臼山城跡遊歩道の整備を実施できた。また、事業の中心であった小山荘歴史の会が解散した後の事業の方向性を定めることができた。ボランティア

の参加は少なかったが、ボランティアの募集を継続していくことで、地区内に事業を浸透させていきたい。

②地域づくり事業

・開催方法は変わったが新型コロナの影響の中「小山ふれあいまつり」を開催できたのは良かった。またコロナ下で出来ること出来ないことを考えること今後事業を考える上でヒントになると考えた。

・小山ふれあいまつりで、会場のテレビでDVDを放映していたら、来場者の反応が良かったので、次年度の事業のアイデアになった。次年度は、様々な団体の活動や発表を動画として上映会を行いたい。

・もぐもぐランチは、令和2年度はお弁当の販売を行ったが、ほぼ毎回55食が完売となった。世代間交流を目的に自主的に立ち上げた活動の継続を支えられたことは良かった。また、世代間交流の事業はこれからも必要になると考えられ、他の事業との組み合わせで高い効果を得る

ことができるので、引き続き応援していきたい。

③地域コミュニティ支援事業

・地域づくりの単位は、まずは住んでいる集落になると考えられるため、集落で課題を見つけ、話し合い、解決のために汗を流すこの事業は地域づくりにとって重要だと考えている。事務局である小山公民館が、それぞれの集落と協議することにも意義があるため、今後も続けていきたい。

5 今後の展望

これまで歴史と文化の里として取り組んできた地域づくりの成果を管理しながら次の取り組みを模索していく必要がある。また、広く地区全体や市全体からボランティアなどを募り、活動を継続していく必要がある。

小山夏まつり・小山ふれあいまつりについて、出来ること出来ないことを検討し、今の時代にあった開催方法を模索する必要がある。

動画の撮影とイベントでの上映について、実施方法を模索していく必要がある。また動画の配信は著作権などが絡んでくるので、勉強の必要がある。

地域コミュニティ支援事業については、集落で話し合い、協力ができることが地域づくりの基礎となるためのきっかけになると考えている。今後も継続し、小山地区の良いところである「結の精神（こころ）」が無くなってしまわないよう、事業を続けていく。